

渡島大島

1 概況

上空からの観測では、噴気の状況や火口の状況に変化はありませんでした。火山活動は静穏な状態です。

2 上空からの観測結果

30 日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、噴気は認められませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、寛保岳（中央火口丘）主火口南東側内壁の地熱域に対応した高温域が認められましたが、熱域の拡大等は見られず、前回（2003 年 4 月 18 日）と比べて特に変化はありませんでした。一方、北側内壁の地熱地帯は日射の影響が大きく地熱の有無を判別することはできませんでした。

その他、火口周辺の形状等にも特に変化はありませんでした。

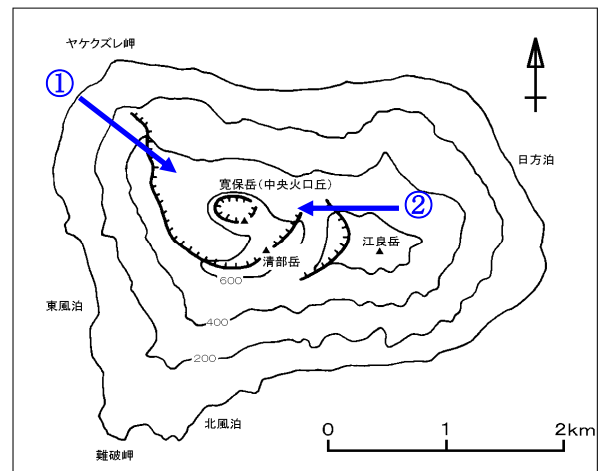


図 1 渡島大島 火口周辺図

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

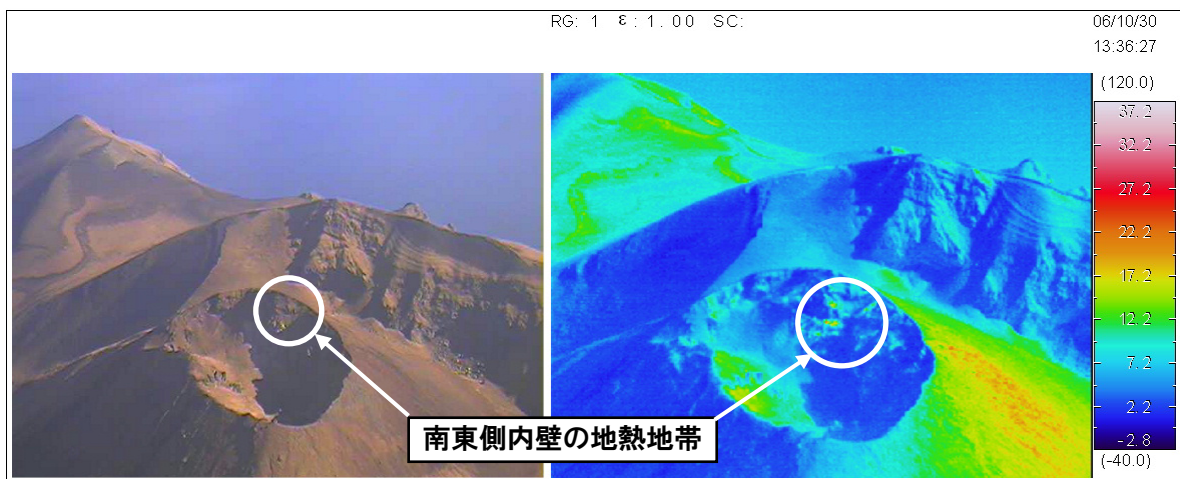


図 2 渡島大島 寛保岳主火口の表面温度分布

（2006 年 10 月 30 日、北西側上空から撮影：図 1 地形図中①、北海道開発局の協力による）

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

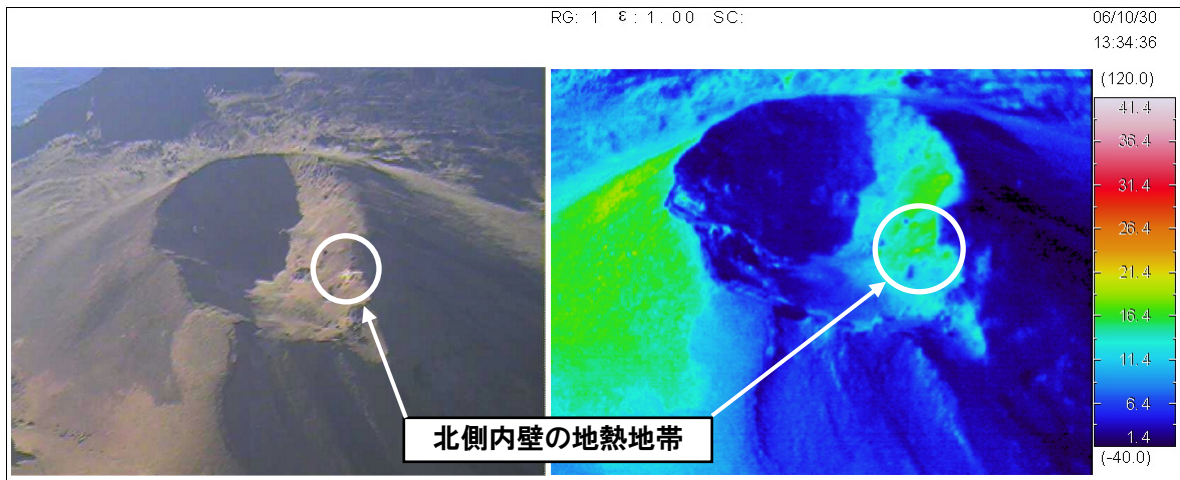


図3 渡島大島 寛保岳主火口の表面温度分布
(2006 年 10 月 30 日、東側上空から撮影：図 1 地形図中②、北海道開発局の協力による)

参考：

渡島大島の山頂部には中央火口丘（寛保岳：標高 648m）があり、径約 200m×300m、深さ約 70m の火口があります。この火口内壁には 2 か所の地熱地帯が知られています。1991 年（平成 3 年）に札幌管区気象台が実施した機動観測では、火口南東部の地熱地帯で最高 77℃、北部の地熱地帯で最高 38℃（地中温度深さ 10cm）を観測しています。また、南東部の地熱地帯ではごく弱い噴気が認められています。